

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信

運営委員会発行(記録:安藤明弘、編集:中川健史) (主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第165回哲学カフェ例会(2022.3.10)記録

《プーチンのウクライナ侵略にどう立ち向かうのか?》



「突如舞い込んだウクライナ侵攻と全面戦争化。その情報の多くはまたもやアメリカ国務省・国防省発信。でも時間が経つと、異なった見方の情報も。だが国際法無視、残虐なプーチンの行為は許せない。

いま岐阜は花爛漫。ウクライナの人々にも、一刻も早く停戦と平和、春が来ることを願うばかり。」

(写真は、ウクライナにも早く春が来ますように！と願って撮ったものです。(吉田) 各務原市・新境川堤 2022.3.29)

問題提起 吉田 千秋

・2月24日入院中に、ロシアのウクライナ軍事侵攻を知りました。今回、急遽テーマを変更し、この問題について意見交換したいと思います。

・この間の出来事と現状は省きますが、ロシアはウクライナを全面攻撃し、原発や核施設を砲撃し、核兵器使用の脅迫まで行っています。国際法を無視したロシアの暴挙はもちろん認められません。世界各地での大規模の非難行動が行なわれ、国連の特別総会でロシア非難の決議が、圧倒的多数の支持を得て採択されました。しかし、この決議には拘束力はなく、たんなる「非難」とどまるものでしたが、大きな圧力になりました。

・いくつか考えなければならないことがあります。ひとつは、ロシアの軍事侵攻の理由、背景です。それぞれ複雑に絡み合った三つの対立があります。まず初めに、ウクライナ内部における親欧米派と新ロシア派の対立。次に、ウクライナとロシアの民族的・国家的次元の歴史的経過・対立、さらに、NATO(特にアメリカ)とロシアの大戦後の戦略的対立があります。これらの問題を考える素材としての情報については、欧米のメディアのみに頼ってはいは正確な理解は得られません。(略)

・二つめに、この戦争の出口、さしあたっての停戦の可能性です。プーチン大統領の「用意周到な決意」から、簡単ではないでしょう。ひとつ思うのは、東部紛争解決を計った「ミンスク合意」の実現を、「英雄」ゼレンスキー大

統領が怠り、NATO加盟を急いだ「失点」です。このことがロシアを追い詰めたとはいえ、軍事侵攻はもちろん正当化できませんが、この合意に立ち戻ることが、出口のひとつになるように思われます。(略)

・さらに、この問題に私たちはどう向き合う必要がある

あるのでしょうか。とくに、この機に乗じて、日本国内では、「敵基地攻撃能力」の現実化や、「核兵器共有」論が出ています。しかし、軍事力を強化することが日本の進むべき道であるとは思えません。憲法9条の精神、つまり「武力では平和は作れない」を貫くことが肝要です。

・戦争の第一の犠牲者は一般の市民です。すでに多くの市民が犠牲になり、数百万の人々が戦火を免れるために故郷を後にし、国外に逃れ、過酷な避難生活を余儀なくされています。さしあたり私たちにできることは、軍事的支援ではなく、この人たちに助ける手をさしのべるとともに、日本を「戦争ができる国」にさせないことではないでしょうか。



＜意見交流＞

* 他国を侵略するロシアの行為は認められないが、ロシアはNATOの東ヨーロッパへの拡大に追い詰められたと感じていた。ウクライナがNATOに加盟すれば、ロシアはNATOと直接対峙することになる。

* なぜ、NATOが脅威だという前提で議論する必要があるのか。それが既にプーチン氏の論法に則った見方になっている。それでは結局、間接的にロシアの軍事侵攻に理解を示すことになる。

* 本当にNATOの東方拡大はロシアの安全保障を脅かすのか。仮にそうだとするとNATOとロシアが敵対関係にあったということである。NATO及び西側諸国は冷戦後、信頼関係を構築し、ロシアに敵意を抱いていないことを示す努力をしてきた。日本を含めNATOの中核を成すG7は、ロシア(当初ソビエト連邦)をサミットに参加させた。1997年には、2年後のNATO拡大を見据えてロシアとNATO諸国が協定(NATO・ロシア基本文書)をも結んでいる。だが、ロシアに対する配慮が足りなかったかもしれない。でも、NATOがロシアの安全保障を無視して一方的に拡大したと言うのは事実ではない。

* 今回軍事侵攻でロシアは国際公約を反故にした。1994年にウクライナと米国、英国、ロシアの間で“ブダペスト覚書”が調印された。これによってウクライナはソビエト時代に配備された核兵器を放棄した。放棄された核兵器はロシアが引き取った。この覚書の中で米英露は核兵器を放棄するウクライナの主権と領土の保全を約束している。もっともロシアの協定破りは遅くとも2014年のクリミア併合によって始まっていた。

* “ミンスク合意”に立ち戻る必要があると言われる。ではそれが守られていたら、今回のことはなかったと言えるのか。プーチン氏は旧ソビエトの影響圏を確保または復活させたいと考えていて、欧米とウクライナの争奪戦を行っている。国連総会においてロシアの行為を非難する決議を141か国が支持した。しかし将来のGDP上位の国が多く棄権に回った。日本は将来の力関係を考慮して行動した方が好い。これは結局ヨーロッパの問題である。

* ワルシャワ条約機構は消滅した。しかしNATOは未だに残っている。冷戦の遺物であるNATOはロシアから見れば脅威ではないか。国際政治において力の一極集中は好ましいものではないかもしれない。ロシアのやってい



ることはもちろんけしからんが、ウクライナのゼレンスキー大統領の方針にも疑問を感じる。人々を大勢死なせるよりも、ロシアの要求である非武装中立を受け入れた方が賢明なのではないか。

* 核大国のロシアを相手に外からの力で、戦争を終わらせることは危険が大き過ぎるので、NATOなどが軍事介入することはない。しかしロシア国内で、市民の抗議活動が大規模化して、新興財閥が離反するようなことがあれば、政権は内部から動揺するだろう。この紛争の解決策はそういう形でしかありえないのではないか。

* この戦争の成り行きはロシア国内の動きに左右されるように思われる。ロシア国民の動向が重要である。

* ウクライナとロシアの関係とか、NATOとロシアの関係のことはよく分からない。この戦争がこの先どうなるかも想像できない。ただ報道を見ていると泣けてくる。戦争をして何かいい事があるのか。誰かプーチンを止める人はいないのか。

* ロシアはロシア系の住民のいるウクライナ東部の一部を独立国として承認し、その要請に応えるという名目でウクライナに軍事侵攻を始めた。国家という存在が人々の間に境界線を作り、争いの原因となっている。15世紀、16世紀にヨーロッパの強国がアメリカ大陸を征服して植民地とした。強国が弱小国を吸収して大きな帝国を築いた。ロシアはかつてのロシア帝国の再現を求めているように見える。

* 普通の人たちは多分、平和に暮らしたいと思っているだけだろう。権力者は国家の論理に幻惑され、一般の人々は国家の思惑に翻弄される。国家は悪しき存在なのかもしれない。降伏すれば人々が死ぬことを止めることができる。これは無理な選択なのか。

* 中国の様な権力が人々に何でも命令することのできる独裁国家は意志決定が簡単で、しばしば人々の異なる様々な権利や利害に配慮しなければならない民主主義よりも効率的な政治ができる。中国は確かに欧米に

比べコロナ禍を比較的容易に抑え込んで、ヨーロッパで発展した民主主義に対して、自分たちの国家形態の優位性を示したと主張していた。しかし今回のロシアによる戦争は、権威主義的な独裁政治のために、一人の絶対的な権力者の暴走の結果である。戦争の停止はロシア市民が目覚めて戦争反対の意思表示をすることができるとにかかっている。

* 気がかりなことは、今後外国に逃れたウクライナの人たちはどうなるのかということである。

* ウクライナの人たちが降伏したくない気持ちは分かる。ロシアの行為がかえってウクライナ人の愛国心を刺激して激しい抵抗を招く結果となっている。

* 問題を解決するために軍事力で争うか、つまり戦争をするか。平和的に話し合いで、つまり政治的に解決するか。どんな場合も、最大限、話し合いで解決する努力をしなければならない。戦争をすれば失うものが大き過ぎる。

* デンマークの国連大使が言ったこと:「ロシアが闘いを止めれば、ウクライナに平和が訪れる。ウクライナが闘いを止めれば、ウクライナはなくなる。」シンプルな表現だが、的を得た発言に思える。ロシア軍が戦争を止め撤退すれば、ウクライナの人々は日常生活を取り戻すだろう。しかしウクライナの人々が今闘いを止めれば、ウクライナは自分たちのことを自分たちで決める独立国家として存在することを止め、プーチンのかいらいが支配するロシアの属国になるしかないだろう。それが分かっているから、ウクライナの人たちは闘いを止めることができない。

* プーチンは精神的にまともではない。彼の口にする目的は、それが正しいか否かは別に、今彼がやっているやり方では到底達成することができない。それどころか正反対のことをやっているというしかない。本当にプーチン氏が失脚してくれたらって思う。一人の人物が権力の座に長く留まることの弊害が露骨に表れている。

* 武力では何も解決しない。どんな場合も最終的には話し合



いが必要である。闘って傷を深くしてから話し合うよりも、初めから話し合って解決するに越したことはない。「目には目を、歯には歯を」式で、武力で武力に対抗するやりかたでは、悲惨な結果を招きかねない。東アジアには台湾問題がある。中国はロシアの武力侵攻の成り行き、特に西側諸国がどのように対応するかに注目しているだろう。中国がロシア式に行動したら、恐ろしいことになる。

* ウクライナ紛争の流れで、一機に憲法改正に持っていかうとする人たちがいる。その人たちは、ロシアの軍事侵攻の様なことを招かないために、日本は軍事力を強化し、しっかり備えて置く必要がある、と主張する。ウクライナは軍事的に弱いと、ロシアから軽く見られていた。

* ウクライナの人と話す機会があった。その人はウクライナ第二の都市ハリコフ出身で、ウクライナ人とロシア人の両親を持っている。ロシアに近い東部出身者なので、同じウクライナ人でも見方は西部の人たちと異なる。ウクライナがヨーロッパと結びつくことで、東部の工業地帯が没落することを危惧していた。

* ウクライナは親欧と親露の二つに引き裂かれていて、2004年のオレンジ革命以来、二つの勢力の争いに振り回されて来た。また海外から過激な勢力が入り込んで暗躍している。その辺りはユーゴスラビア紛争における事情と似ている。

* かいらいは親欧派、親露派どちらもひどい。ロシアの行動は問題だが、NATOの方も問題だ。アメリカは直接軍事介入してウクライナを助ける積りが無い。

* 米国は第二次世界大戦の結果、一国で世界の富の60%を独占し前例の無い大きな影響力を持つ国となった。圧倒的な国力を背景に米国は、大国のエゴや奢りから少なからず誤りを犯したが、もう一つの軍事超大国ソビエトと対峙して、戦後の世界秩序を作ってきた。21世紀に入って、著しい経済成長を遂げた中国やインドなどアジアの国々台頭もあって、米国は明らかにこれまでの



世界にける指導的立場を失いつつある。特に、著しい経済成長を遂げた中国は、世界で影響力を増大させ、個人の自由や民主主義といった、米国を中心とした西側世界の価値観に基づいた世界秩序に挑戦しようとしている。現在、進行中のロシアによるウクライナの侵略行為も、そういう動きの一つと見なすことができる。我々は今大きな転換期にさしかっている。今後、多極化する世界の中で如何なる国際秩序が形成されるのか注意して見ていかなければならない。

*ウクライナ政府は、ドンバス・ルガンスクの親露派武装勢力の支配地域に自治権を付与することを定めた“ミンスク合意”の履行を怠ってきた。結果として、ロシアに口実を与えることになって、ウクライナは大きな付けを払うことになった。

*“ミンスク合意”は停戦を定めていた。誰の責任が断定することは難しいが、停戦が守られなかった。同協定が遵守されなかったことで、ウクライナ政府を一方向的に非難することはできない。

*国家の枠にとらわれず、諸国民の市民レベルでの交流が大切である。人々が国の枠を越えて交流し、理解し



合う様にすることが世界の平和の基礎となる。

*今日の若者はインターネットの世界で飛び交う情報の影響を受けている。人は誰でも自分の先入見に合致する情報を好んで吸収する傾向がある。インターネットのメディア情報は発信者個人の見かたによって偏向しがちであって、正にそこに危うさがある。インターネット・メディアの中は、反中情報が氾濫していて、その影響で「中国は危険である」「中国にやられる」と思っている若者が少なくない。

<意見交流の最後に> 吉田千秋

・プーチン大統領の行為は全く正当化できません。それがこの問題の議論する上での大前提です。意見交流では様々な見解が聞かれました。武力で平和を作ることではできません。いかなる場合も、最終的には話し合って事態の收拾を図る必要があります。初めから流血や破壊を経ることなく問題を解決するのが最も賢明です。日本国憲法の9条の精神を活かすことが求められています。



・この機に乗じて、自衛隊に敵基地攻撃能力を持たせよとか、“核共有”を議論すべきと言っていますが、これは全く方向違いで、大変危険なことです。こうした議論が抵抗なく受け入れられてしまっている日本はかなり心配な状況にあると思います。私たち

はもっと日々の生活のために働いている人たち、普通の人たちの声を大切にする必要があります。

・現在の世界情勢においてロシアに大きな影響を及ぼすことのできる国があるとしたら、中国ではないでしょうか。ウクライナを支援するヨーロッパと経済的つながりが深い中国の習近平氏は、停戦を仲介し世界の信頼を獲得するチャンスなのですが、今のところ目立った動きはありません。中国の仲介が停戦を実現する鍵になるかもしれません。対米追従の日本政府にはあまり大きな期待はできません。

・スエーデンやフィンランド、またスイスまでもウクライナ支援に乗り出し、伝統の中立政策を見直し、NATO同盟関係を模索する様な動きも出ています。国連機構のありかたも含め、いまあらためて世界の安全保障の問題を考える機会であることは間違いありません。もう少し勉強して理解を深め、自分たちにできることを進めたいものです。

<例会感想、意見、便りなど>

○<ロシアのウクライナ侵略について>

1946年日本は主権在民と基本的人権、国際紛争の解決のために武力を行使しないとする西欧型民主主義精神を基調とする日本国憲法を制定した。西欧諸国での民主主義の積み重ねや植民地解放の動きや、第一次大戦後体験を経て、当時としては世界でも最も先進的な理想を掲げた平和憲法であった。

今この時、ロシアがウクライナへ武力行使をして「降伏するなら停戦する」と言い、停戦を口にしながら他方では病院、劇場、集合住宅、専門学校、生活施設への爆撃を続けている。多数の死者が出て住宅や公共生活施設が破壊されている。ウクライナは生活圏を防衛するため戦っている。

日本国民の私としては「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」平和な手段で平和の声を広げていきたい。世界中の人たちの声がロシア国民に伝わりその政府にも伝わって「もうこりゃ 戦争は出来んわ」と言って兵を撤退するまで続けることになる。

(アダム・スミス)

○<市民たちの連帯こそ>

千秋先生や皆さんの発言を聞いて、色々なモヤモヤが少しほどこけてきた。根っこの部分、当たり前のことだけれども、「武力で平和は作れない」ことの確認。数日前にFacebook にこう書き込んだ。「プーチン、ゼレンスキー、バイデンの誰にも与しない」 戦争は国家間で起きるものだが、真の対立軸は国家権力と民衆。ウクライナ市民・ロシア市民と連帯して反戦の狼煙を上げ続けることの大切さ。

話題になっていた映画「ひまわり」の50周年レストア版がこの春、名古屋今池のシネマテークでの上映が決まったようです。ベトナム反戦運動の中で広まったピートシーガーの「花はどこへいった」。ピートはショーロホフの『静かなドン』の中の「コサックの子守唄」にヒントを得て創作したと。まさにウクライナが舞台なのです。

「一人じゃ変えられない 唄っても変えられない それでも みんなの力でなら きっとできる その日がくる♪」
(てつ)

○<ウクライナ情報の洪水は制御できるのか>

今回のロシアによるウクライナ侵攻では、双方の情報戦が激しく、小生には真偽の判別が難しいことが非常に多い。例えば「偽旗作戦」、果たして露側だけなのか。また『ウクライナ軍はネオナチ』は露側の作り事」とい

うが、数年前まではウクライナ人自身が彼らの横暴を告発する姿をしばしば伝えていた。

今回の両国間の問題は2004年のオレンジ革命や2014年のマイダン革命と繋がっている。この二つ、共に始まりは民衆の平和な反政府デモだった。だが次第に過激化し14年では大統領を追放してしまった。この過激化を主導したのが右派セクターで、一部勢力はカギ十字紛いの記章をシンボルとしていた。また、この過程では「偽旗」に類似した謀略が実行された。これについては、オリバー・ストーンのYouTube動画「ウクライナ・オン・ファイヤー」に詳しい。

今日はSNSの時代。個人が簡単に動画も撮れ、加工もでき、海外にさえ発信できる。5W1Hを吟味できないまま、メディアもウクライナの生の現地情報として拾い上げ、編集者の筋書きの中で位置づけ流している。欧米側からの溢れる情報が流れる中、現代の新たな文明ウイルスに汚染されたウクライナ情報がどうか、それを判別するPCR検査法はまだない。(フィリピン・ウオッチャー)

○<ウクライナ危機とコロナ禍を前にして>

3月21日時点、ウクライナで起きている状況はますます悪化しており、ウクライナのアフガン化は避けられなくなってきています。それにともなってロシアが核兵器の使用する可能性も高まったような気がします。また悪いことにコロナ禍にプラスされて今回の事が起こったため、社会の疲弊がますます進むのは確実で、それを緩和する手段はほぼないというのが現実だと思います。

そうするとこの現実絶望する一定数の人々が出現するのは明らかで、その帰結として、「維新」のようなファシスト政党が躍進し最悪のコースに進んでいくという想定が一番可能性が高いのでは、と思ってしまう。哲学カフェでも、生活防衛どうするかというようなテーマを早めにやってもいいんじゃないかと感じました。
(たなか)

○<クーデターから1年、ミャンマー、国民が望む将来>

ミャンマーではクーデター後、「尋問センター」における拷問、非暴力市民への重機関銃やロケット砲の発射、空軍による空爆、大学教員の7割など公務員の大量解



雇、「管制自警団」による告げ口奨励、コロナで苦しむ住民から酸素ボンベ強奪、ニセ患者になりボランティア医師・看護師の逮捕、家族から「保釈料」をとるための逮捕、ありとあらゆる弾圧が横行しています。独立以来70年以上自国民(少数民族)と戦い続けている国軍が3月10日現在、1642人の市民を殺害し、13,000人が逮捕、知り合いの学長も含め1973人が指名手配され、40万人以上が国内避難民になりました。こうした中で設立された「国民統一政府(NUG)」は連邦民主制を目指し、「人民防

衛隊(PDF)」を結成し、21年9月7日に国軍の討伐を宣言しました。スーチー氏を支持しつつも個人崇拜から物理的・精神的に卒業した国民は、国軍支配のない社会を確実に見据え始めました。国際社会がその方向をしっかり支持しなければ現状が既成事実となり、ミャンマー国民の苦悩は終わらないでしょう。(仲澤和馬)

→仲澤さんは、留学生に協力して支援活動を行っておられます。関心・意向のある方は仲介しますので連絡下さい。(吉田)

【ウクライナ侵略をめぐって・図書案内 (吉田)】

○黒川祐次著『物語 ウクライナの歴史』

中公新書、2022年(第10版)

著者は元駐ウクライナ大使で、2002年の刊行以来、ウクライナの歴史を紹介する最も堅実なものとして版を重ねてきた。ロシア、ポーランドなどとの複雑な関係を知ることができる。ここ20年の展開は別書で補う必要があるが。

○平野高志編著『ウクライナ ファンブック』

合同会社パブリブ、2022年(第2刷)

連日ニュースで知られるウクライナの地域や都市。キエフ、ハリコフ、オデッサなど、産業や文化や宗教、言語についてもう少し知りたい人にお薦め。後半に収められているウクライナ人とは、ウクライナ史なども簡潔で読みやすい。

○オリガ・ホメンコ著『国境を越えたウクライナ人』

群像社、2022年

作曲家プロコフィエフや日本に滞在した詩人エロシェンコなどが有名だが、国境を越えたウクライナ人は多い。本書では10名を取り上げている。ウクライナの文化・芸術の豊かさを知るための格好の一冊でしょう。

○真野森著作『ルポ:プーチンの戦争』

筑摩書房、2022年(第2刷)

2014年親ロシア大統領が罷免され、クリミアが武力によってロシアに編入された。その後東部地域での「共和国」をめぐる内戦が続いた。本書はその間の状況をつぶさに伝え、今日のウクライナ侵略の源を記す貴重なルポである。

○西谷 修著『戦争とは何だろうか』ちくま新書、2016年

非戦論者の著者が、戦争の歴史をたどりつつ、軍事力で平和は守られるのか？ 敵は誰なのか？ をはじめ、戦争についての基本的課題を解き明かす。世界が新たな戦争状態に入ろうとしている今、新鮮な感覚で読める貴重な一書である。

○千々和泰明著『戦争はいかにして終結したか』

中公新書、2021年

副題「二度の大戦からベトナム、イラクまで」にあるように、本書は近現代の戦争をふり返って、それがどのような終り方をしたのかを探っている。今日のウクライナ戦争の出口戦略のヒントが、そこからヒントを得られれば幸いである。

＜お薦めテレビ番組＞ 「報道特集」 TBS=CBS 毎週土曜17:30~18:50(通常)

ロシアの侵攻が始まって約1ヵ月、ウクライナの惨状が深まるばかりで最悪。「まずは停戦を！」との叫びが広がっても、当事国のそれへの動きは鈍い。

この戦争、始まる前から「情報戦」と言われ、現在進行形の現地情報はもとより、背景となる2004年と2014年の「革命」やそれ以前の歴史についても双方の認識が違っていた。またそこにEUやNATO側からの働きかけも絡んでいる。

この日(3月26日)の「報道特集」は、現地取材中のJNN特派員のレポートをベースに構成され、2014年の政

変についても、キエフで取材した際のビデオに基づいて説明された。もちろん金平キャスター自身も「ソ連崩壊」などを長年追いかけて、今回の

侵攻でも先月末西ウクライナに取材し、それらの蓄積が番組のベースになっているようだ。また「専門家」の解



説も挿入され、混沌とした現状からの出口も探っていた。

番組で最も印象に残ったのは、「プーチンはウクライナの民衆が立ち上がると、その背後には米権力の工作があると信じ込んでいるが、そこが今回の間違いの大本だ！」と、終盤でポイント解説をした畔蒜泰助氏の指摘だ。その見方の適否は分かれるところであろうが、指

導者の人間観・世界観に潜む欠落や歪みが大きな政治決断に影響している可能性は大いにありうる。今回そこまで踏み込めたのが「報道特集」の凄さのように思えた。

今後も、国内外の焦眉の課題に真摯に向き合う番組として、ぜひ観ていただきたい。（大橋健司）

<この一本> マシュー・ウォーチャス監督『パレードへようこそ』(原題「PRIDE」) 2014年、イギリス

舞台は1984年のイギリス。サッチャー政権の大規模な炭鉱閉鎖案に抗議する炭鉱労働者の戦いに対し、政権は警察力による暴力的な抑えこみを図る。そのニュースを見たゲイのマークは「炭鉱労働者の敵は俺たちと同じサッチャーと警察、彼らを応援しよう」と、やはりサッチャーから敵視されていた同性愛者の仲間と、「LGSM(炭鉱労働者支援レズビアン&ゲイの会)」を結成。そして炭鉱労働者支援の募金を始める。集めた募金を全国炭鉱労働者組合に送ろうとするが、LGSMを名乗ると拒否されてしまう(同性愛者は当時の組合には受け入れられなかった)。しかしウェールズの炭鉱町ディライスに連絡すると、支援受け入れの返事。その後、紆余曲折がありディライスの炭鉱も閉鎖されてしまうが、LGSMとディライスの炭鉱労働者とその家族の間に連帯が生まれ、翌年ロンドンのプライドパレードにディライスの仲間が先頭に…。

この映画はほぼ実話だとのこと。「社会」(人と人とのつながり)を破壊しようとしたサッチャー政権に抗して、追い詰められた側がいかに連帯と団結をもって人間の尊厳を守ろうとしたかを、映画の一場面一場面が私に教えてくれた。その象徴が、LGSMのメンバーを歓迎するパーティーで、実際に地元出身のブロンウィングがBread and Rosesを歌い始め、ディライスの人々の大合唱となる場面だ。ピート・シーガーのSolidarity Foreverとビリー・ブラッグのThere is Power in a Unionが最後のパレードの場面で流れるのもよかった。（井川敏郎）

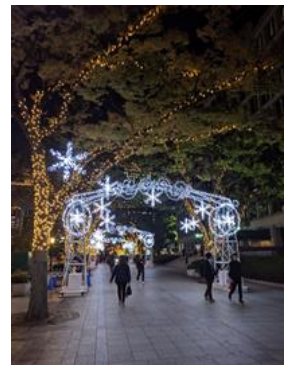


<大阪だより その4> 「ウクライナ侵略と維新の会」

ロシアがウクライナ侵略を開始して1ヶ月、爆撃跡の映像には胸が潰れる思いです。国連総会は国連憲章違反でロシア非難の決議を2度も上げて国際世論で追い詰めています。しかし日本では、安倍元首相・橋下元維新代表がテレビ番組で核共有の発言をし、日本維新の会の松井代表(大阪市長)は同調して非核三原則の見直しに言及し、党として核共有の議論の開始を求める緊急提言を外務省に提出しています。岸田首相は敵基地攻撃能力保有を検討すると国会で明言し、自民党は3月13日の党大会で防衛体制の見直し・強化、日米同盟強化、改憲をめざす方針が採択されました。二度の世界大戦を経て「武力よりも話し合いで」という国連憲章と日本国憲法9条を否定し、武力対武力の19世紀に戻すという自民党に、維新は急先鋒として働いています。

大阪では、コロナ死亡者数が東京(人口1.6倍)よりも多く、保健所体制と医療の崩壊を起こしています。私は

幼子を抱えて、コロナ以外の急病や大ケガでも病院にかかれない恐怖を感じながら生活しています。吉村府知事はメディアに出ずっぱりでしたが、「単なる構想段階」で発表して現場の職員と府民が振り回されてきました。松井市長のコロナ施策はとんと聞いたことがありません。



以前は「維新は大阪だけで強い」と言われていましたが、2021年衆議院総選挙では隣の兵庫で9人全員当選し、京都で当選1だが比例得票率は倍増させ、東京2、神奈川2、千葉1、埼玉1、福岡2、宮城1、そして岐阜の隣の愛知で2と、都会で議席を獲得しています。関西圏はマスコミの影響が絶大ですが、全国的に維新勢力が波及していると感じています。（宮本亜紀）

哲学カフェ 第27期(2022年前半)例会予定 *毎月第2木曜日、午後7:00~9:00 ふれあいスペース
⇒ コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第163回例会 1月13日(木)	「世の中を明るくするには何が必要か？」 * コロナ禍2年。慣れるどころか、第6波も心配で、疲れだけが蓄積するこの頃。	終了 しました
第164回例会 2月10日(木)	「日本は民主主義国家なのですか？」 * バイデン大統領主催の「民主主義サミット」に、中国は反発。日本はもちろん参加。	休止します
第165回例会 3月10日(木)	「 テーマ変更「プーチンのウクライナ侵略にどう立ち向かう 」 * たが、老人ヨメの多くはたぐさの心配を持っている。こつ終活していくのが。	終了 しました
第166回例会 4月14日(木)	「 天皇制・皇室のいま、これからどうするの？」 * 昨年メディアがむやみに取り上げた真子さん結婚問題。放っておいたら良いのに。 * 肝心の女性天皇や女性宮家の問題については、まともや放置。どうするのかね。	
第167回例会 5月12日(木)	「 いまミャンマーはどうなっているか、あらためて考える 」 * ウクライナ侵略とともに、忘れてはいけないミャンマー軍政の弾圧。国民の抵抗も続けられています。 * 今回、ミャンマーへの大学教育支援、留学生の受け入れなどを長年行ってこられた仲澤和馬教授(岐阜大・物理学)に話していただき、意見交換します。	
第168回例会 6月9日(木)	未定	
第169回例会 7月10日(日)	同上 →創立14周年記念行事を3年ぶりに開催めざします。	

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願ひします。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願ひます。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



★毎年3月になると、山里の山菜が気になる。家の近くの梅林や家庭菜園、ご先祖様のお寺の境内をぶらぶらしてフキノトウを探索するのが楽しい。昨年は、3月中旬ごろにフキノトウ狩りに出かけたが、先を越されてしまい、採取できなかった。

★今年は、平年より寒かったおかげで、薑が出る寸前の食べごろのものが沢山取れて幸運だった。夕飯時に、小麦粉に塩コショウを加えてテンプラに仕上げ、ビールのつまみとして賞味。

★4月になると、タラの芽が近くの山間にニョキニョキ、ゼンマイがすくすく顔を出す。またテンプラにして山の幸を楽しむことができる。こんな平穏な日常生活を享受できることは、「平和」日本のおかげであると、しみじみ思う。

★しかし、この「平穏な日常感」は突如破られてしまった。ロシア軍のウクライナ侵攻の暴挙である。ロシア大統領、プーチンの狂気の沙汰。古くからウクライナとロシアは歴史的には兄弟国ではなかったのが。

★我々日本人にとっては、ウクライナ料理の「ボルシチ」はロシア料理だ。ロシア語とウクライナ語は、日本語と中国語ほどの違いはないとさえ思っていたのだが。一体両国間には何があったのか、理解に苦しむ。

★プーチンは、ウクライナ侵攻、短期に制圧できないと知るや、あろうことが、今度は「核兵器の使用」をちらつかせている。武力衝突から万一、「核戦争」にまでエスカレートするようなことになれば、今世紀最大の危機である。

★核の犠牲者である日本人が、まず、「戦争反対・即時停止」を世界に先駆けて発信すべきであるが、安倍元首相や自民党政権及び一部の野党が核保有論を声高に、叫んでいることに、啞然とする。彼らの世界観と歴史観の貧困さには愕然とする。日本国民はそこまで愚かではないことを、明確に主張すべき時である。

(島田幹夫)